

光西寺だより 第39号

海一味

発行所

大阪市平野区加美北1-25-1

光西寺

Tel 06-6754-6423

<http://www.oct.zaq.ne.jp/kousaiji>

「真実の幸福とは」

光西寺副住職

田中 咀积

幸福の五つの条件」

1. 適度な健康
2. 経済的な安定
3. 社会的な名声
4. 変わらざる愛情生活
5. 老境にいても適当な仕事をもつ

ある法話テープで聞いた幸福になるための五つの条件というものを挙げてみました。佛教では「財欲、飲食欲、色欲、名誉欲、睡眠欲」を人間の五欲であると説いています。

健康でお金があつて、妻や子供に愛され、人からも信用され、生涯にわたる仕事を持つていたら、つまり五欲が満たされていたら、その人は幸せであると考えるのが私達の日暮らしかもしれません。

しかし、お釈迦様はそれが迷いであるとおっしゃいました。人生の老いと病と、死はだれも避けることはできません。そして、すべてのものは移りかわっていきま

す。そうであれば、幸福の五つの条件はどれも崩れていきます。そのようなあてにならない条件にしがみついて、幸福を願う姿が迷いであると教えられました。

五欲を超えたところに人間の真実の幸福があるのだよと仏教では教えてくれます。生老病死によつても崩れ去ることのない大きな命の世界、つまり仏様を抛り所に生活をさせていただくことこそが本物の幸せと呼べるのでしよう。

お盆の法要が八月十六日にごさいます。どなた様も是非、お寺へお参り下さい。お待ちいたしております。合掌



真正地放下，
才能找到内心的那份自在。

※正信念仏偈の意味を知ろう

正信…如来の言葉を信じる
(絶対に救う)

念仏偈…嬉しい時も悲しい時も唱える讃歌

*正信偈は親鸞聖人の著作であり、浄土真宗の立教のいわれを著わした「教行信証」の「行の巻」の最後に書かれているものです。

○正定之因唯信心

お浄土に往生し仏となるべき身に定まるのは信心ひとつである

○感染凡夫信心発

まどいで汚染された人々は本願を信じさえすれば

○証知生死即涅槃

生死の迷いのままが涅槃であるという仏果をうる身になり

○必至無量光明土

必ず、はかりない光明のお浄土に往生して仏となり

○諸有衆生皆普化

迷える人々をみんな、すみずみまで救うといわれた

○道綽決聖道難証

道綽禅師は聖者の自力修行の教えではさとりがたいと決められて

○唯明浄土可通入

ただ往生浄土の教えこそが仏様の覚りを得る道であると明らかにされた



(続きは次号にて)

盂蘭盆法要 献灯の集い

お盆の法要へ是非お参り下さい。夜は献灯をお供えしお勤めいたします。先祖・故人の名前を書いて感謝の心をお供えください。
一灯に数名記入できます。

八月十六日(水)

●午前十時半〜合同追悼法要

●午後一時半〜

●午後七時〜 献灯の集い

(受付PM五時半〜)

(夜の法座のみ、読経後に松永真澄様によるバイオリン生演奏)

献灯

一灯 参千円



ヴァイオリニスト

松永 真澄 氏



「献灯の集い」

生演奏

日時 八月十六日(水) 夜七時〜

会場 光西寺本堂 (二階)

松永真澄氏プロフィール

一九三三年生まれ

日本音楽家ユニオン・宝塚歌劇団・プラザストリングス・大阪交響楽団などを経る。

現在はボランティア活動をライフワークとして各市民病院での病院コンサートをはじめ障害者福祉施設・特別養護老人ホーム等にて演奏。また様々なチャリティーコンサート

トに参加等、これまでの人生を音楽一筋に生きてこられたお方です。光西寺とは弟さんとの仏縁ができました。現在は東大阪市在住。楽器のお話などもしていただき、三十分を予定しております。



報恩講法要のお知らせ

十月二十一日(土) 一時半〜

十月二十二日(日) 一時半〜

講師 岡山県笠岡市

本願寺派布教使・蓮乗寺住職

田井 智彦 師

今月の掲示板

苦しいこともあるだろう

云い度いこともあるだろう。

不満なこともあるだろう。

腹の立つこともあるだろう。

泣き度いこともあるだろう。

これらをじっとこらえてゆくの

男の修業である。

「山本五十六の名言より」

八十日間の伝灯奉告法要が五月三十一日をもって満座となりました。その前は「第一回離郷者聞法のつどい」が邑智東組主催にて開催されました。その際お参り頂いた天王寺区佐藤様より次の様な感想文を頂戴いたしましたのでご紹介いたします。

伝灯奉告法要に参拝させて頂いて

佐藤 早智枝

第二十五代 専如門主様 伝灯奉告法要へ参拝させて頂く機会をお与えくださいましたことに感謝申し上げます。日本各地から来京されたであろう満座の皆様と本堂で一緒に合掌する姿は厳かでも美しい姿だと思いました。お誘いを頂かなければこのようなありがたい一日は過ごせませんでした。頂いて帰りました冊子を読ませて頂きまだまだ愚かな私は反省しきり……。残された人生を念仏者としてどう生きるか志を同じくする方々と共におかげさまで感謝の気持ちを持ちご指導を受け

精進して参りたいと思います。

小学校入学前の幼き頃祖母につれられて一里の道を歩き西林坊へ聴聞に行き静かに座っていたことが心に残っております。他に子供は居たのか何故私が続いていかれたのか定かでないまま。

法話と茶話会の開催日

平成二十九年 副住職法話

九月 八日(金)午後二時



門信徒会費納入のお願い

平素は光西寺護持発展のため何かと協力を賜り心より御礼申し上げます。門信徒会も八年目を迎えました。平成二十九年度分の門信徒会費三千円を未納の方は、早めにご納入いただきますようお願い申し上げます。

門信徒会会長 出口 忠

若坊守のひとりごと

今年のふれあい旅行は、和歌山県の道成寺だった。このお寺は安珍という僧に恋をした清姫が約束を裏切られ、激怒のあまり蛇になり道成寺の鐘の中に逃げ込んだ安珍を焼き殺すという伝説で有名ならしい。歌舞伎の演目にもなり、多くの歌舞伎役者の写真が飾られている。

その伝説の詳しい内容を読んでみると、最初にあいまいな嘘の返事をした安珍のせいで清姫がストーカーの様に豹変してしまったという風に思えてしまう。女の情念の怖さを説いているらしいが、それってもとはと言えば安珍が蒔いた種ではなからうか？？現代の女性からみれば多分ほぼ全員がそう思うかも……。と、蛇になって安珍を追いかける清姫の紙芝居を見ながら、色々と考えてしまいました。

